

幸区における市民活動支援拠点と学校施設有効活用に関する考え方

I 市民活動支援施設

市民活動支援コーナー
(区役所内 スペースcha-cha-cha)

印刷作業コーナー、交流コーナー、展示スペース

【利用時間】 8時30分～17時(平日のみ)

【管理・運営】 地域振興課

【主な利用用途】

- ・打合せ(10人程度)
- ・印刷等の作業
- ・区民による写真展や作品展など
- ・活動団体のチラシ等の配架



【課題】

- ・狭いスペース(25㎡)に印刷コーナー、交流コーナー、展示場所があるため利用者が輻輳してしまい、**利用効率が低下**してしまう。

幸市民館日吉分館
(日吉合同庁舎)

談話室、印刷作業コーナー

【利用時間】 (ともに休館日を除く毎日)

①談話室:9時～22時

②印刷作業コーナー:8時30分～21時

【管理・運営】生涯学習支援課

【主な利用用途】

- ①子育てサークルによる子育て広場
- ①文化、学習、地域活動の打ち合わせ
- ②印刷等の作業



【課題】

- ・日吉合同庁舎内にあり、談話室(無料)と日吉分館会議室(有料)の利用用途等の違いについて、区民の誤解を生じやすい。



区役所新庁舎の整備に伴い、区民協議を反映した
新たなコミュニティエリアを確保(平成26年度供用開始予定)



＜「幸区役所庁舎整備地域協議会」検討会におけるワークショップの実施結果＞

- ・市民が利用しやすいコミュニティエリアとして、「写真や絵の展示をしたい」「ちょっと休憩したい」「少人数で打合せをしたい」「会話・休憩・談話がしたい」「日曜、祭日も使いたい」「夜間、土日也使いたい」などの意見が出された。

- ・フリースペース、会議室、印刷室などのパーツを組み合わせ、合計200㎡程度となるコミュニティエリアのレイアウト模型を作成し、実際の間取りを検討する過程で、「フリースペースを広く取る」「出入りしやすいところに設置する」「会議室は大きすぎると使いにくい」という内容で参加者の合意が図られた。



模型を使って間取りの検討を行う様子

＜新たな市民活動スペース供用開始に向けた、中間支援組織の設立＞

- ・平成26年度に予定する新庁舎のコミュニティエリア供用開始に向け、区民自らが地域課題を発掘し解決する「まちづくり推進委員会」に市民活動支援組織設立協議会を立ち上げ、市民活動団体等の活性化をめざして団体等への情報提供や団体間のネットワークづくりについて検討していく。(平成23年度から25年度)

II 学校施設の有効活用

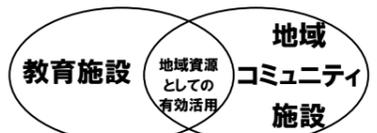
＜現状＞

- ・これまで、校庭、体育館、特別教室等を地域住民のスポーツ、生涯学習、文化活動、市民活動の場として開放するため「**学校施設開放運営委員会**」を各学校に設置して、登録団体からの申請に基づき利用調整を実施。
- ・平成20年度からは、特別教室の新規開放のため施設の改修を進めるなど、**より一層の学校施設有効活用を推進**。本区では平成23年度には小中学校16校で特別教室等を開放しており、平成25年度には区内全18校において特別教室等の有効活用が実施される見込み。
- ・しかしながら、**特別教室の利用率はそれほど高くない**。(特別教室のべ利用回数372回 ※参考:体育館のべ利用回数5524回【平成22年度 区内全小中学校実績】)



＜本区の考え方と取組＞ 『地域資源としての学校施設の有効活用』

- ・学校施設は教育施設であるとともに、**地域コミュニティ施設の側面も持っており**、今後は学校を教育施設としてだけでなく、**地域共有の「地域資源」として捉え、教育施策とコミュニティ施策の融合による新たな展開を推進**していく。



教育施策 + コミュニティ施策
＜施策の融合による新たな展開＞



【現在の取組】

- ・御幸中学校区(御幸中学校、御幸小学校、西御幸小学校、戸手小学校)において、学区内の町内会・自治会の代表、開放運営委員会、学校関係者、教育委員会、幸区により「**地域資源活用推進委員会**」を組織し、次のテーマに沿って**ケーススタディを実施**している。

- ①特別教室の利用率向上に向け、既存の開放運営委員会が持つ特別教室のスケジュール等の**情報のネットワーク化に係る検討及び試行**

- ②**普通教室(一時的余裕教室)の有効活用に係る検討及び試行**

また、試行及び検討結果を踏まえ、他区及び他地域における学校施設有効活用に向けた検討の際の**参考資料となる報告書を作成**する。



【検討状況】

- ・御幸中学校区内の各学校ごとの開放の**実態把握**と、開放運営委員会の抱える**課題を整理**
- ・特別教室の**空室等の情報のネットワーク化**に向け、開放運営委員会が持つ情報をもとに、**地域で利用調整し自主的に管理運営する仕組みを検討**し、今後、**試行して課題を抽出**
- ・今後、御幸中学校の**普通教室(一時的余裕教室)を試験的に開放して、利用調整方法等の課題を抽出**

- ・**特別教室の利用率向上を目的として**、町内会関係団体、学校施設利用団体、市民館利用団体を対象に**アンケート調査を実施**し、**地域ニーズを把握** (※現在集計中)

【御幸中学校B棟2階の普通教室(一時的余裕教室)】

階段	多目的室	多目的室	開放する教室	WC	多目的室	多目的室	階段
----	------	------	--------	----	------	------	----

＜今後の展開＞

ケーススタディ実施結果を踏まえ、教育委員会と連携した学校施設有効活用を推進していく。

幸区提案型協働推進事業について

I 幸区提案型協働推進事業とは

幸区では、地域の課題を地域の団体と行政が協働して解決するため、政策目的に沿って区が設定したテーマ(区民会議の提言、区計画等をもとに決定)に関する事業計画提案を募集し、選考された事業計画を提案した団体との委託契約により、その事業を実施している。
政策目的達成のため事業効果が高いものは、地域課題対応事業として事業化を進めている。

II 事業実施結果(平成22年度)

<楽しく子育て@ふるいちば> 受託団体:子育て支援センターふるいちばボランティア交流会

●事業概要

親子で楽しめるイベントを通して、子育て世代の人たちが家族の絆を深めるとともに、より一層の父親の育児参加を図る。また、地域子育て支援センターの存在を広くアピールすることで、利用者とボランティアの拡大を目指す。

- (1) 移動動物園 (2) 紙芝居まつり
※(1)、(2)とも同日開催(1回)



<おでかけ“ぽかぽか”～お外でもっとあそぼうよ! 出張青空子育てひろば～>

受託団体:夢見ヶ崎プレーパークをつくる会

●事業概要

野外型の子育て広場を身近な公園で開催することにより、公園での遊びを豊かにし、親子の交流の場の提供や、交流の場を提供する担い手の掘り起こしを行う。この取り組みを通して、乳幼児期の子育てを支援する。

- (1)おでかけ“ぽかぽか”(出張青空子育てひろば)(12回)



<幸区の「しあわせ」発信事業>

●事業概要

川崎駅西口「しあわせひろば」完成と連動して、「しあわせ」をキーワードにした地域の商店の取り組みを発信することで、「しあわせひろば」のPRとともに地域の魅力の再発見、再認識のきっかけづくりを行い、区のイメージ向上を図る。また、地元の商店街に興味や足を向けてもらうことで地域の活性化につなげる。

- (1)「しあわせ」をテーマにした商品の開発及び「しあわせ」を冠した商品・メニュー等の作成
(2) 本事業をPRする機会としての「しあわせ祭り」を開催(2回)

受託団体:ハッピーサークル



III 募集内容(平成22年度事業の募集時)

- 募集テーマ:「身近な地域での子育て支援」、「区のイメージアップ」、「身近な地域での健康づくり」
- 募集事業数:6事業以内
- 委託金額:1事業あたり10～50万円
- 応募対象:幸区内において事業を実施できる団体(町内会・自治会、ボランティアグループ、市民活動団体、NPO、企業等)

IV 運営上の課題とその対応

<課題>

- ①受託終了後、提案事業を自立して継続的に行われるまでには至らない。
※政策目的達成効果が高い事業については、地域課題対応事業として事業化を図っている。
(楽しく子育て@ふるいちば、おでかけ“ぽかぽか”の2事業は平成23年度地域課題対応事業化)
- ②地域での自立した活動の立ち上げにつながらない一過性のイベント的な事業提案も多い。
- ③継続提案が多い一方、新規の応募提案が少ない。



<対応>

- ①②提案段階から事業実施にいたるまで、区と受託者間で、受託終了後を見越した事業展開を継続して協議。
- ③募集テーマについて、地域課題の解決という事業趣旨を踏まえつつ、より提案を行いやすいよう見直しを実施。
- ③地域の団体とつながりのある課が本事業のPRを積極的に行うなど、本事業の周知の徹底。

上記の対応を図り、平成23年度には新規提案の4件を含む計5件の事業提案があり、選考を経て、すべての提案につき提案団体との協働により、現在事業実施を図っている。

- (1)健康維持増進事業(健康体操等の実施により、高齢者の健康増進を図る。)
- (2)小倉わんぱく広場で自然とふれあおう～子どもが豊かに育つ新しい公園づくり～(子どもが豊かに育つ公園づくりのための講座や管理作業を通して、世代を超えた交流を実現する。)
- (3)クラウンの優しい気持ちの伝え方を知ってみよう(思いやりの気持ちや嬉しかったことなど、心のキャッチボールの方法をクラウンを通して学ぶ。)
- (4)幸区の「しあわせ」発信事業(地域の活性化と、新たな地域コミュニティの構築を図る。)
- (5)グラウンド・ゴルフ大会「フロンターレ幸カップ」(区内で人気の高いスポーツ「グラウンド・ゴルフ」により、健康づくりと世代を超えたコミュニティの構築・活性化を図る)

V 今後の展開

- 既存の地域課題対応事業との性格分けを明確にし、「提案型協働推進事業」は立ち上げ支援を目的とするものである旨を応募者に徹底する。
- 市民館等との連携を強化して、応募者の拡大と新規事業の発掘を進める
- 応募時期やテーマに柔軟性を持たせ、委託金額が少額の応募を認めるなど、自立的な活動ができる環境づくりを進める。
- 協働事業の本旨に則り、受託者に適宜支援を行いながら、自立的活動への枠組みづくりと誘導等を行う。

第3期幸区区民会議の取組状況

I テーマの審議と取り組みの方向性

- 地域の団体から推薦を受けた16名と、公募による4名により、平成22年7月から第3期幸区区民会議がスタート
- 各委員が、幸区区民アンケートの結果や、地域活動等の中から直面している地域の課題などから、審議テーマを検討
- 審議過程において、**課題解決につなげるための調査活動等**を行うことを確認
- テーマ選定にあたっては、次の点を踏まえて審議
 - ①**市民が主体**となり、**行政と協働して行うにふさわしいこと。**
 - ②**実現の可能性が高いこと。**
 - ③**実際に行動する主体が想定できるものであること。**
 これらを踏まえ、新規テーマとして「**地域におけるエコ・環境の推進**」「**高齢者のサポート体制と地域コミュニティ**」に取り組むことを決定した。

II 環境部会の取り組み

<審議テーマと内容>

- (1) 地域におけるエコ・環境の推進
- (2) 自転車のマナーの向上(第2期からの継続案件)

<これまでの審議>

- ①区民を対象としたエコ関連施設見学会の企画・実行、②小学生を対象としたゴミ分別の出前講座の実施、③ゴミ分別のマナーアップキャンペーンなどイベントの実施④町内会・自治会等と連携したゴミの分別状況調査の実施、の4案をもとに取り組み内容を議論した。
- その結果、**子どもから大人へと分別の取組を広げることが有効**であり、**小学生を対象とした分別マナーの向上**にむけて、具体的な内容について検討していくこととした。
- また、マナーアップキャンペーンなど**イベントの実施**については、この取組単体をイベントとした場合の集客効果が薄いため、**何らかの大規模なイベントと関連して実施**することとし、具体的な内容について検討していくこととした。

<調査活動等>

【これまでの取組】

- ミックスペーパーをトイレトペーパーとして再生する工場(三栄レギュレータ東京工場)、国際川崎環境技術展(等々力アリーナ)、エコプロダクツ2010(ビッグサイト)を見学し、企業や団体等の環境への取り組みやリサイクル過程等の把握

【今後の取組】

- プラスチック製容器包装、ミックスペーパーの分別回収につき、区内では平成23年3月から本格実施された機会を捉え、**小中学校を対象に分別の出前講座を実施する。**(環境局川崎生活環境事業所、幸区役所企画課、幸区区民会議)
- 大規模イベント(幸区民祭、幸区リレーカーニバル)において、**分別の啓発を実施する。**



III 安心・思いやり部会の取り組み

<審議テーマと内容>

- (1) 高齢者のサポート体制と地域コミュニティ
- (2) 夢見ヶ崎周辺魅力発信(第2期からの継続案件)

<これまでの審議>

- 高齢者のサポートのためには地域コミュニティの強化が不可欠**なため、両テーマを併せて検討していくこととした。
- 高齢者(特に独居)が日常生活に困っていることなど、実態把握調査が必要であり、民生委員に対してアンケートを実施し把握することを検討したが、違った形での把握を検討していくこととした。
- 3月に発生した震災の体験を踏まえ、「**震災を想定した高齢者等のケアのあり方**」を切り口に、**区内でシンポジウムを開催**することとした。
- 夢見ヶ崎公園周辺の魅力発信については、ソフト面における**魅力発信・向上**にむけて、議論を進めていくこととした。

<調査活動等>

【これまでの取組】

- 幸区社会福祉協議会が運営する、幸区小倉の空き店舗を活用した地域住民交流の場「小倉の駅舎 陽だまり」を見学し、高齢者同士または高齢者と若い世代の交流が活発に行われている先進事例を学習

【今後の取組】

- 区内各地区で、総務局危機管理室による「**ぼうさい出前講座**」と、参加者による**震災をテーマにした意見交換会を実施する。**



IV 運営上の課題

- 委員が多忙であり、日程調整が困難なことから会議開催間隔が開いてしまい**審議が深まりにくい。**
- 様々な手段により広報を行っているものの、依然として**区民会議の認知度が低い。**

委員構成

環境部会

- 団体推薦・区長推薦(7名)**
 - ・幸区自主防災連絡協議会
 - ・川崎市幸区交通安全対策協議会
 - ・幸区民生委員児童委員協議会
 - ・幸区PTA協議会
 - ・幸区子ども会連合会
 - ・川崎市幸商店街連合会
 - ・幸区町内会連合会
- 公募(3名)**

安心・思いやり部会

- 団体推薦・区長推薦(9名)**
 - ・川崎市幸区社会福祉協議会
 - ・幸区医師会
 - ・幸区老人クラブ連合会
 - ・幸区保護司会
 - ・「日吉のわっ」実行委員会
 - ・日吉商店街連合会
 - ・幸区文化協会
 - ・幸区役所夢こんさあと実行委員会
 - ・幸区まちづくり推進委員会
- 公募(1名)**